

自由のともび

JIYU NO TOMOSHIBI

VOL. **87**

2019 September



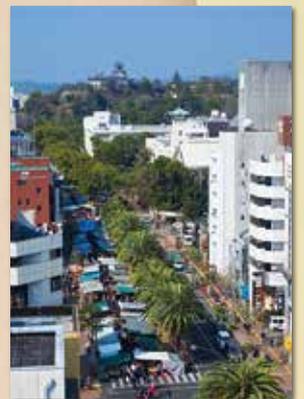
- 「没後100年 板垣退助の志」記念講演会・第98回高知近代史研究会報告
「立憲自由党の成立」
- 企画展「町並みと暮らし展
—地図と写真でたどる高知市—」
- 夏休み子ども歴史教室報告
- 小学校教員向け研修講座



明治10年代の日曜市(「高知市史 中巻」より)



昭和30年代の日曜市(高知市産業政策課提供)



現在の日曜市(高知市産業政策課提供)

■リレーエッセイ

「自由民権」をどう語るか

「自由民権運動」とは何か？

「自由民権思想」とは何か？

「民権家」とは誰か？

これらの問いは、長きにわたり民権研究の根本命題だったし、自由民権記念館・町田市立自由民権資料館にとっても、永遠に問い続けるべき課題だろう。

民権研究は、戦後歴史学、特に「明治百年」以降の日本近代史研究において、特別な立場にあった。民権研究は、明治維新を賛美し顕彰する「明治百年」に対する、日本近代史研究者や歴史教育者らの異議・批判の象徴的存在として浮上したのである。「自由民権百年」運動は、その気運が創り出した。結果、各地で掘り起こしがなされ、多様な魅力ある運動とその担い手が発見された。両館ともに、その恩恵に預かり運営をしてきたという面が多分にあるだろう。

一方、「自由民権百年」時点で、民権研究は、民衆史研究や国民国家論の立場から痛烈な批判が加えられたし、研究と顕彰の間の本質的ズレもたびたび指摘されてきた。それは、戦後歴史学（なかでも「自由民権百年」に象徴されるような民権研究）の姿勢への批判でもある。そして、その克服が何度も提唱、模索され、現在に至る。また、政治史や憲法史の研究では、政府内の立憲構想・議会構想やその実現に向けた模索に関する成果も出され、立憲構想・議会構想は、民権運動の専売特許とのイメージは過去のものとなっている。

昨年「明治一五〇年」では各地で記念企画が催され、両館ともその例外ではなかった。「自由民権百年」をどう評価し、「自由民権一四〇年（もしくは一五〇年）」をどう表現するのか、が両館に課せられた眼前に横たわる課題だろう。

「自由民権百年」運動の成果として誕生した両館にとって、開館三〇年を節目に、真剣にこの課題に向き合う時期が来てはいないか。そして、刺激し合える関係であり続けたいと思う。

町田市立自由民権資料館学芸員 松崎 稔

二〇一九(令和元)年六月一五日に開催しました、企画展「没後一〇〇年 板垣退助の志」記念講演会・第九八回 高知近代史研究会報告の講演要旨を掲載します。

一八八八(明治二二)年三月、高知県知事に任命された黒田清隆の腹心・時任為基は、着任後、潮江新田に板垣退助を訪ねた。この異例の訪問をきっかけに、黒田総理大臣と板垣の間にパイプが通じることになる。板垣は黒田内閣に責任内閣樹立の可能性を見、期待を寄せた。一方、元勲網羅内閣を構想していた黒田も、時任を通じて板垣に入閣を打診した。板垣は断り、むしろ大同団結運動の総帥後藤象二郎の入閣を勧めた。

しかし、一八八九(明治二二)年三月、後藤が通信大臣として入閣すると、大同団結運動は大分裂。運動の主力を担っていた自由主義者の間でも、河野広中らの政社派、大井憲太郎らの非政社派の対立が先鋭化し、政社派は大同倶楽部、非政社派は大同協和会を組織することになった。同年一月、板垣は「旧政友に贈るの書」を発表し、「明治一七年の解党は有形の団体を解散したに過ぎず、自由主義に基づく無形の結合は旧に異ならない。いまや厳然として主義を一定し、政党の基礎を固める時である。政社、非政社両派の対立

は感情的なもので、何ら主義上の問題ではない。相争い、相決するところがあるといのであれば、一堂に会して正々堂々の論議をつくし、その後離合去就を定めよ」と、大阪で開く旧友懇親会への参加をよびかけた。

二月十九日、旧友懇親会は四百余名を集めて桃山産湯楼で開催され、席上、板垣は愛国公党の名による自由主義者の再結集策を提起した。しかし、翌日の大同倶楽部臨時総会はいくまで

「没後一〇〇年 板垣退助の志」記念講演会 第九八回高知近代史研究会報告

立憲自由党の成立

公文 豪(土佐史談会副会長)

も大同倶楽部の名称を維持することを決議。大井らも自由党の再興をめざすことになり、板垣の調停は失敗に終わる。

一八九〇(明治二三)年一月二日、板垣は「愛国公党論」を発表し、「愛国公党は自由主義各派の合同をはかるためのもので、一党にまよれば党名に固執しない」と強調。また「専制政体下の政党と立憲政体下の政党は異なる。立憲政体下の政党は主義に基づいて綱領を定め、現実的な政策をもって国会の議事に臨むべきだ」と説いた。板垣が旧自由党員の三派鼎立をも辞せず、あえて愛国公党結成に乗り出した真意は、「一個人と一個人の行違いなら一個人をもって仲裁することができ、政党と政党とを仲裁するにはまた政党をもってしなければならぬ」(関西同志懇親会の席上演説)という点にあった。「軍略家」板垣の面目躍如たるものがある。この後、自ら関西

も含めた進歩的大連合のための遊説員を東京に送り込み、徳富蘇峰が「国民之友」誌上で賛成論を書き、各党派が賛同の意を表明するなど、実現への機運が高まっていた。七月一日に行われた第一回衆議院議員選挙では、庚寅倶楽部は元の三派それぞれで戦い、結果、改進黨をふくめて民党が多数議席を獲得することになった。政府は進歩的政党の大連合に恐怖し、七月二五日「集会及政社法」を公布。政社の連結通信を禁止した。これによって禍は転じて福となり、各党各派が次々解散、一気に一大政党結成へ向かうことになる。八月二三日、庚寅倶楽部、九州同志会

は新政党の主義を「自由主義」にすることを決定。改進黨は反発して離脱したが、九月一五日、自由主義政党として立憲自由党が成立する。翌年、立憲自由党は「立憲」の文字を除いて「自由党」と改称し、組織を改編して総理に板垣を選んだ。

徳富蘇峰に言わせると、わが国政治家の多くは「順風に帆を上げ、逆風に帆を捲く政治家」ばかりで、「一の羅針盤を持って逆風に関せず順風に関せず、一定の目的に向って蒸気力に鞭打ちて突進せんとするものは板垣伯を除いて」殆んどいなかった。苦心惨憺の末に自由主義陣営をまとめ上げた板垣は、この後、院外にあって自由党を指揮し、日本に政党というものを定着させるため、さらに苦闘を続けることになる。

「町並みと暮らし展」

「地図と写真でたどる高知市」の御案内

◆期間：開催中～二〇二〇（令和二年）四月五日（日）

◆会場：二階 特別展示室 ※常設展観覧券が必要

一八八九（明治二二）年、自由民権運動の高まりの中、市制・町村制によって誕生した高知市は、今年で一三〇周年を迎えました。このことを記念して開催している本展は、高知市のこれまでのあゆみを、町並みと暮らしの移り変わりに注目しながら振り返るものです。

市制施行時より、上水道の新設など近代都市の条件を整えはじめた高知市ですが、一九四五（昭和二〇）年の高知大空襲により、市街地の約四八％を焼失する甚大な被害を受けます。さらに、その翌

と、新生高知市を目指した都市計画により、現在の高知市へと急速に発展してきます。

本展では、戦前の高知市の町並みや、空襲直後の市街地、復興が進む様子などが、その時々町並みと暮らしを垣間見ることができる地図や写真を展示しています。また、高知城やはりまや橋、日曜市の様子などについて、明治・大正期から現在までの変化を見比べることができる「高知市いまむかし」コーナーを設置しています。

そして、当館として外せないのが、当館設立のきっかけである市制一〇〇周年記念事業です。「市制一〇〇周年を振り返る」コーナーでは、一九八九（平成元）年、市民が中心となっ

年には昭和の南海大地震が高知市を襲い、人々の暮らしはもろろん、市民に親しまれていた町並みは一変しました。しかし、その後の懸命な復興作業

て、大規模な市民パレードやミュージカルなど、様々に展開された事業を紹介しています。高知市は、岡本太郎氏に市制一〇〇周年シンボルマーク「自由な私」を制作していた



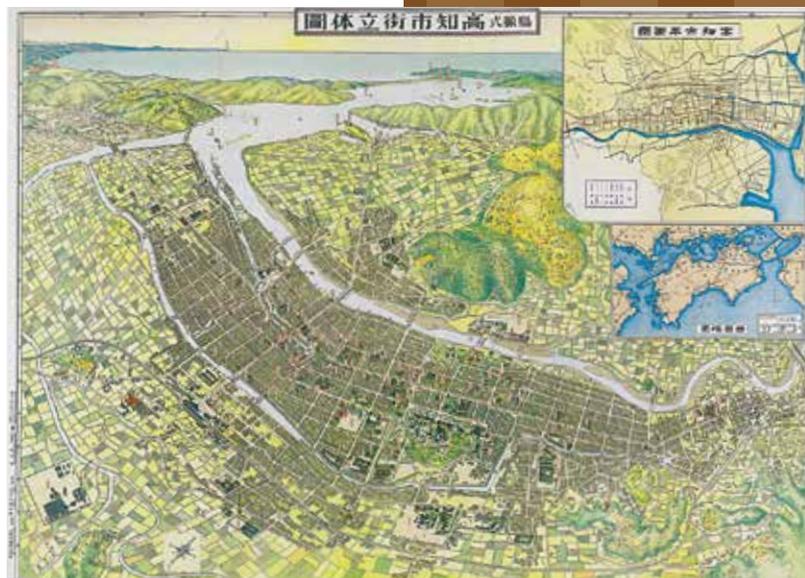
「高知空襲記録写真」より「はりまや橋」(当館蔵)



岡本太郎画「自由な私」(当館蔵)



「土佐三十絵図」より「はりまや橋」(当館蔵)



「鳥瞰式高知市街立体図」(当館蔵)

記念講演会

「高知市の産業と暮らし —経済史の視点から」

講師 ● 宇都宮 千穂氏 (高知県立大学准教授)
日時 ● 令和元年10月26日 (土) 午後3時～5時
会場 ● 1階 民権ホール
参加費 ● 無料

夏休み子ども歴史教室報告

七月二十四日(水)、今年で三回目となる恒例の「夏休み子ども歴史教室」を高知市教育研究会社会科部会との共催により、自由民権記念館で開催しました。

この催しは、自由民権運動や郷土の歴史を常設展示室の観覧やクイズ、歌、劇などで楽しく学び、知識を深めてもらおうと始めたものです。当日は、高知市内の小学三年生から中学二年生までの八〇名が参加し、大いににぎわいました。

運営に御協力いただきました高知市教育研究会社会科部会の先生方、「高知県民謡協会」及び劇団「笛の会」の皆さん、ありがとうございました。



受付の様子



開会式



展示室で説明を聞く子どもたち

夏休みに入ってすぐのこの日、午前九時から受付を開始しました。朝早くから子どもたちの笑顔と元気な声が飛び交い、日頃は静かな記念館もこの日ばかりは活気にあふれています。

受付を済ませて民権ホールに入ると、班別の座席に座り開会式を待ちます。館長からの挨拶などの開会式の後、当館製作の映像資料「自由民権って何？」を鑑賞し、先生からの説明をしっかりと聞いた後、いよいよクイズラリーの始まりです。

一〇班に分かれて二班ずつ、五つのチェックポイントをまわります。各

チェックポイントでの課題をクリアすると、ラリーマップに植木枝盛などの民権家スタンプを押してもらうことができ、五種類の民権家スタンプを集めたら、ラリー終了です。各チェックポイントの内容は次のとおりです。

第1 チェックポイント

第一展示室をまわりながらクイズに答えます。正面柱に書いてある「自由は土佐の山間より」に関する問題など、全部で五つの問題が出題されました。

第2 チェックポイント

第二展示室をまわりながらクイズに答えます。「植木枝盛の書齋」や「自由大懇親会に向う群像」に関する問題など、こちらも全部で五つの問題が出題されました。



「民権クイズ」に挑戦

第3 チェックポイント

合わせて一〇問の民権クイズに、常設展示室の展示資料の中からヒントを探し、答えを考えます。展示室の隅々まで見ながらクイズに挑戦している姿が見られました。

劇団「笛の会」の皆さんによるお芝居を観て、クイズに答えます。明治時代の

「自由民権運動大演説会」を再現した当時さながらのお芝居です。自由民権を訴える弁士、演説を妨害する警察官などが登場します。劇団員の皆さんの迫真の演技に、子どもたちは圧倒されながらも、そのうち聴衆の一人となって、掛け声をかけたり、拍手をしたりして大いに盛り上げてくださいました。



タイムスリップしたような迫力のある演説会

第4 チェックポイント

明治時代に起こった民権運動に関する事柄や民権家が経験した様々な場面が描かれている、当時実際に作られ遊ばれていた「民権すごろく」遊びを体験しました。振出しの「男女同権」からスタートし、上がりの「国会」を目指してがんばりました。



「民権すごろく」遊びを体験

第5 チェックポイント

「高知県民謡協会」の皆さんの三味線の伴奏に合わせて、植木枝盛が作詞した「民権かぞへ歌」を歌います。最



「民権かぞへ歌」を合唱

令和元年度

小学校教員向け研修講座

八月二二日(木)、「小学校教員向け研修講座」を開催しました。

この講座は、学校教育連携事業の一環として実施したものです。学校教員を対象に、自由民権運動について学んでいただき、当館を授業や校外活動な



どで活用していただくことを目的としています。今年度は、少人数により実施することで、密度の濃い講座となりました。

研修講座の内容は次のとおりです。

「自由民権って何？」 映像視聴

当館の民権座で上映している映像コンテツ三本は、平成二九年度にリニューアルしたものです。その中の「自由民権って何？」を視聴しました。この映像は、小学生高学年向けに作成したもので、小学校の団体観覧の際には初めて見ただいています。

常設展示の解説

自由民権運動の歩みを土佐の運動を中心に時間の流れに沿って紹介し、小学校の団体観覧の際に使用している「ワークシート」を使った解説を行いました。

館長による講義

土佐の自由民権運動について、運動の中で生まれた名文句を通して、その歴史を振り返りました。

『板垣退助ブック』を使った 授業提案

当館が作成した学習用教材『板垣退助ブック』(以下「ブック」)を使った授業提案を行いました。

このブックは、郷土の先人であり、令和二年度より全面施行される新しい小学校学習指導要領においても、引き続き取り上げるべき人物の一人とされている「板垣退助」をテーマにした学習用教材で、平成三〇年度に作成し、高知市内の小学六年生全員に配布しています。

ブック作成に当たっては、高知市教育研究会社会(小)部会から、三人の会員(教員)に御協力をいただき、教員の視点による編集を行うとともに、実際に学校現場で使われている教科書に対応した内容とすることで、可能な限り学校現場での使い勝手を向上させています。そして、今回の講座で、教員の皆さんに直接ブックを使った授業提案を行うことで、ブックの利用を促進することをねらいとしました。

本講座では、まず、当館が実施している学校教育連携事業が、学習指導要領上のどういった項目に対応しているのかを説明した後、ブックの特徴や構成、教科

書との対応の仕組み等について解説を行いました。そして、ブックを使った学習指導案とプリント案を提示して、実際にどういった授業の仕方があるのかを具体的に提案させていただきました。

また、講座終了後には、学習指導案の内容や児童への発問の仕方など、学校現場で実践されている教員ならではの貴重な御意見をいただくことができました。

今回作成した学習指導案やプリント案等は、教員の皆さんの御意見もいただきながら、今後も改良を続けて、ブックとともに学校現場へ提供させていただきたいと考えています。

自由民権記念館では、学校との教育連携事業として「小学校教員向け研修講座」以外にも次のような学習支援を行っています。

◆ 出前授業

館長や学芸員が学校に伺います。ブックや「自由民権って何？」等、当館作成の学習用教材の使用に限らず、「自由民権運動」や「板垣退助」といった御希望のテーマに応じた設定が可能です。

◆ 社会科見学等への対応

ワークシートを使った常設展示解説や民権ホールでの映像資料観覧等で自由民権運動の歴史を分かりやすく解説します。高校生以下の観覧料は無料です(随行の教職員も含む)。

ぜひ、御活用ください。

坂本龍馬銅像建設関係 写真アルバム

戦前より社会運動家として活躍し、戦後には県政顧問を務めた入交好保（一九〇六～一九九六）は、後に、大学教育の「退屈」から生まれたものの一つが校友会での演劇運動であり、二つめは坂本龍馬銅像建設運動であると語っているように、龍馬像建設の発案者であり、建設運動の中心人物でもあった。

入交の所蔵資料は、二〇〇一（平成一三）年六月、当館に寄贈（『紀要第一一〇号』参照）されているが、このアルバムは、坂本龍馬銅像建設のさまざまな過程を記録した貴重資料である。当時としては日本一の大きさとなる銅像であったため、原型を三つに分割し、品川から神戸まで貨車で輸送し、神戸港から桂浜まで船で運んだのであるが、アルバムには、募金に参加した海南中学校生徒たちとの集合写真、艇で銅像の到着を待つ人々、銅像を船から運び出す建設関係者、地鎮祭や除幕式の様子などが含まれており、建設までの苦労をうかがい知ることができる。

その他、銅像建設関係資料では、坂本龍馬銅像建設趣意書（大野武夫起草）、高知県連合青年団団報などの原資料があり、さらに銅像建設運動を側面的に支援した野村茂久馬（銅像建設会長）の書簡二四通（昭和一〇年～昭和三十六年）をはじめ、元南満州鉄道株式会社総裁・國沢新兵衛、俠客・鬼頭良之介などの書簡も残されている。

銅像建設運動は、入交が、土居潔充らとともに発起し、県下の青年たちに新聞で呼

びかけを行い、一九二六（大正一五）年八月七日、「坂本龍馬先生銅像建設会」を結成したことに始まる。建設運動の主体である「高知県青年」（名目上は高知県連合青年団）は、県下各地をまわって募金活動を行い、最終的な募金総額は、二四、九四六円九三銭にのぼっている。

本山白雲製作となる銅像の除幕式は、一九二八（昭和三年）五月二七日の海軍記念日に、軍艦浜風乗組員や朝倉歩兵第四連隊も参加するなか挙行された。田中義一内閣総理大臣をはじめ、多くの祝辞が寄せられたが、なかでも田中光顕による「門下の一人たりし光顕欣喜の情は果して何を以てか之を譬へん。感涙の滂沱たるを覚ゆるのみ」との祝辞は、特に参加者の感涙を誘ったという。

なお入交は、自筆の「銅像建設日誌」の最後に、「日本改造の為に一命をすてた龍馬は遂に永遠に生きた。思想は永遠の流れである。敢て龍馬の思想をとほさない。」と当時の心境を力強く記している。



浦戸丸から艇に積みかえ桂浜に向かう木箱入り銅像

民権家人物録



北村 浩
きたむら ひろし
(1865~1942)

説活動を行い、民権派の勝利に貢献した。

なお、妻の喜代衛は、植木枝盛の薫陶を受けた進歩的女性の一人であった。一八八九（明治二二）年五月には高知県婦人会の創立大会で山崎竹らとともに演説を行うなど、女性の権利拡張のための活動に努め、小学校の教員としても活躍していたが、一八九四（明治二七）年に三一歳の若さで死去している。

元治二年一月五日（一八六五年一月三十一日）、香美郡立田村永田（現南国市）で香美郡民権派の重鎮として知られる北村守之助の長男として生まれる。

一八八〇（明治一三）年、従姉の大谷喜代衛と結婚。翌年には上京して慶應義塾で学ぶ。帰県後の一八八三（明治一六）年には、小学校教員のかたわら、佐竹右虎や山本忠秀らとともに民権結社「公友社」を立田村に組織し、自由民権運動に参加した。一八八七（明治二〇）年の三大事件建白運動では、「一宮村組合戸長在職大名誉表彰会」発起人となり、妻の喜代衛とともに教員免許状効力停止処分（一八八八（明治二一）年一〇月解除を受けた。また、一八九〇（明治二三）年の第一回総選挙では、植木枝盛に随伴して各地で遊

他方、北村は、慈善事業にも深く関係しており、一九〇九（明治四二）年、高知育児会と土佐慈善協会との合併により高知慈善協会が誕生した時には理事となり、一九一一（明治四四）年には副会長に就任するなど、大幅な体制変革期を向かえた同協会を支えた。また、高知博愛園（高知慈善協会育児部を改称）の園母として二〇〇〇名以上の孤児を養育した岡上菊栄を直接スカウトしたのも他ならぬ北村であり、その慧眼には確かなものがあった。

晩年は、田村立田村信用組合創立に尽力するなど、地域の産業振興や教育振興に貢献し、一九四二（昭和一七）年四月五日、七八歳で死去した。

行事予定 (秋・冬)

予定は変更になる場合があります。詳しくは自由民権記念館までお問い合わせください。
◆は当館内自由民権記念館友の会事務局にお問い合わせください。

開催中～2020(令和2)年4月5日(日)

市制130周年記念企画展

「町並みと暮らし展 —地図と写真でたどる高知市—」

会場：2階特別展示室
※常設展観覧券が必要

9月28日(土) 10:00～

申込不要

◆文化財施設の見学会

田中良助旧邸資料館の巻

現地集合
少雨決行(大雨の場合は、友の会事務局に
お問い合わせください。)

10月12日(土) 13:30～16:00

申込不要

◆友の会第19回「県詞の日」記念講演会

「再考『土佐自由民権運動の特色』」

講師：松岡 億一氏(前自由民権記念館館長)
会場：1階研修室

10月26日(土) 15:00～17:00

申込不要

■高知近代史研究会第100研究会

企画展「町並みと暮らし —地図と写真でたどる高知市—」 記念講演会

「高知市の産業と暮らし —経済史の視点から—」

講師：宇都宮 千穂氏(高知県立大学准教授)
会場：1階民権ホール

12月13日(金) 10:00～

申込不要

◆「兆民忌」

集合場所：高知市筆山上り口(雨天中止)
筆山にある中江家の墓参り

12月14日(土) 9:00～17:00

要申込

◆史跡めぐり<本山町・土佐町編>

案内人：宅間 一之氏(土佐史談会会長)
参加費：4,000円程度(バス代・保険代・
昼食代など)参加人数により変動
※参加申込みは友の会事務局まで
(定員25名に達し次第締切り)

12月22日(日) 13:30～

要申込

◆第23回民権凧まつり 「土佐凧を作ろう」

会場：1階自由ギャラリー

1月4日(土) 14:00～

申込不要

◆第23回民権凧まつり 「土佐凧を揚げよう」

場所：鏡川北岸トリム公園(雨天中止)

1月22日(水)～2月24日(月・振休)

■第20回社会科自由研究作品展

会場：1階自由ギャラリー
市内小中学生の社会科に関する
研究作品を展示

1月23日(木) 10:00～

申込不要

◆「無天忌」

集合場所：高知市小高坂市民会館(雨天中止)
植木枝盛の命日に墓所の清掃と墓参り

2月16日(日) 13:30～

申込不要

■博物館講座

講師：岡林登志郎氏
(自由民権記念館友の会会長)
会場：1階研修室

●ワークショップ 「万華鏡を作ろう!」

申込不要

10月13日(日)・27日(日)

11月4日(月・振休)

12月14日(土)

1月25日(土)

3月8日(日)・21日(土)

午前の部 10:00～12:00

午後の部 13:00～16:00

会場：1階研修室
定員：各回25人
参加費：400円(材料費込)
午前・午後ともに最後の1時間、子ども
対象の展示解説あり



友の会よりお知らせ

「クリアファイル」に新柄が加わりました

クリアファイルは、これまで2種類の
の図柄(「板垣退助」「織田信福」
肖像写真)のみでしたが、この度
「植木枝盛」肖像写真が仲間入
り。さらに、高知県詞「自由は土佐
の山間より」とともに、板垣退助
等土佐の自由民権家たちがキャ
ラクター風に描かれたクリアファ
イルが加わりました。

御来館の記念に、ぜひどうぞ。
価格は1枚300円(税込)



会場使用料変更のお知らせ

令和元年10月から消費税率が8%から10%となることに伴い、
自由民権記念館の会場使用料が下表のとおり変更になります。
(*観覧料は変更ありません)
皆様の御理解・御協力をお願いいたします。

施設名 時間	自由ギャラリー		民権 ホール	研修室	アトリウム 庭園 その他 の施設
	全室	分割使用時 西室 東室			
AM9:00～ AM12:00	6,740円	3,870円 2,850円	10,260円	3,950円	33,070円 以内で 指定管理 者が定め る額
PM1:00～ PM5:00	8,980円	5,160円 3,800円	13,680円	5,280円	
PM6:00～ PM9:00	6,740円	3,870円 2,850円	10,260円	3,950円	
全 日	20,220円	11,610円 8,570円	30,800円	11,870円	

※入場料、会費等を徴収する場合の使用料は倍額となります。



自由のともしび
JIYU NO TOMOSHIBI

自由民権記念館だより vol.87

発行 2019(令和元)年9月30日 発行人 筒井 秀一

発行所 〒781-8010 高知市棧橋通四丁目14番3号 TEL.088-831-3336 FAX.088-831-3306

自由のともしび(Vol.60から)が当館公式サイト(<http://www.i-minken.jp/>)で御覧いただけます。